〔總見記十三〕淺井方城主等心替信長公又江北御進發事

淺井長政是ヲ聞テ、早々山本山へ押ヨセ、踏落サント怒ラレケレドモ、大事ノ前ノ小事ニ目ヲツケ、足長ニ敵ノ地へ出張無益タルベキ由、家老ドモ諫ケレバ、其企サヘ叶ガタク、腹ヲスヘカネ怒リ居給フ、

〔近世畸人傳五〕戸田旭山

旭山戸田氏、自號无悶子、通名齋義、東備の人、浪華にきて醫を業とす、〇略中あるとき攝津國高槻近邑の豪農、物産の門人にてつねに出入する人、其母の病の診察をこふ、請に應じて至りしが、不起の症なれば辭して歸らんとするとき、近隣又親族の病人、これかれの診察をこふ、四五人は診したるが遠く迎えたる人なれば、此折を幸に尙醫治をこふもの多し、こゝにして戸田氏怒を發し、主人に對しのゝしりていふ、子は不孝者也、不起の母を題して、えもしれぬ人々の醫治をせしめんとするかと、元來癇症にて、よく怒る人なれば、大きに顏色を損じたれば、やう〳〵になだめて謝してかへせり、〇略下